

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 24～26 年度)

実施機関：東京女子大学（総括責任者：小野 祥子）

プロジェクトの概要

(1) 支援室体制と活動内容

「女性研究者活動支援室」を設置し、支援策を実施する。また、「コーディネーター」が運営の中核的役割を担い、研究者・学生への啓発活動、効果的な情報発信、研究活動の継続・発展のための相談体制、女性研究者の交流促進、定期的なニーズ調査実施と更なる改善のための提言を行う。

(2) 研究を支援する者の配置計画

初年度に制度整備を図る。研究支援員として、大学院学生・大学院修了者を2年度目に3名、3年度目に3名を配置する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継続性・発展性
A	a	b	b	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

学長のコミットメントにより事業の推進が図られ、学内教職員、学生への啓発活動による本事業に対する理解の促進、研究支援員制度などの環境整備による研究力向上の成果が上がっており、概ね所期の計画と同等の取組が行われたことは評価できる。ただし、大学全体の女性研究者の採用比率は目標を上回ったが、自然科学系の女性教員、特に上位職の伸びが少なく、一部で採用比率の目標を達成できなかった。今後は、上位職への女性教員の採用・昇任を促す環境整備への一層の取組を期待する。

- ・ **目標達成度**：女性研究者に対する研究環境整備、学内の意識啓発、女性研究者の研究力向上、大学全体の女性研究者の在籍比率、採用比率は概ね目標を達成しており、評価できる。自然科学分野の女性研究者の在籍比率は目標をわずかに下回ったが、全体として概ね目標を達成したと認められる。今後は、上位職の女性研究者を増やすことも含め、なお一層の取組を期待する。
- ・ **取組**：女性研究者に対するニーズ調査に基づき、相談事業の実施、研究支援員の配置、メンター制度の導入、ロールモデルの提示など様々な取組をきめ細かく実施していることは認められるが、その具体的な内容、支援の対象者、規模、予算等に対する効果が明確でない。女子大学としての特色を活かした女性研究者支援の取組、自然科学系における女性教員採用のための積極的取組が十分ではなく、今後の改善を期待する。
- ・ **取組の成果（システム改革）**：女性が少ない自然科学分野、歴史学分野で女性教員を採用できた

こと、研究支援員制度利用者の研究成果が上がったこと等、一部成果は認められるものの、環境整備、意識啓発、保育支援等の成果が具体的に現れていない。自然科学系の女性教員の在籍比率、特に上位職の女性教員比率が依然として少なく、公募と審査、さらには、上位職登用策の方法についての抜本的なシステム改革による今後の一層の取組が必要である。

- **実施体制**：女性研究者の研究活動支援策を企画・立案するため、学長直属の運営委員会、女性研究者支援室を設置し、学長のコミットメントにより事業を推進したことは評価できる。また、理事長が推薦する理事を運営委員会に加えたことは、経営側との意思統一の面で意義があり、評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後は、本事業の取組を女性研究者支援室からエンパワーメント・センターに引継ぎ、補助事業期間中と同規模の予算措置を行い、女性教員の少ない分野へのポジティブアクションによる採用、上位職への登用の方針を全学人事委員会で確認するなど、女性研究者の研究環境整備や支援を継続することは評価できる。